

養護教諭不在時における養護実習生が経験した困難点からの一考察

斉藤ふくみ*・梶原宏造**・金森弓枝***・佐藤めぐみ****
高取 愛*****・西 葉子*****・山本亜紀子*****

A Study on the Difficulties that “Yogo” Teacher Students Encountered during the Absence of a “Yogo” Teacher

Fukumi SAITO *, KOZO KAJIWARA **, Yumie KANAMORI ***, Megumi SATO ****,

Ai TAKATORI ***** , Yoko NISHI ***** , Akiko YAMAMOTO *****

(Received October 1, 2007)

In this study, the researchers clarified the difficulties that Yogo Teacher Students encountered during the absence of a Yogo Teacher. The target number of students was 20 coming from a Special Yogo Teacher Course in K University. The research method used was semi-structured interview. From the results, the researchers came up with six categories pertaining to the difficulties that the students encountered during the absence of a Yogo Teacher and three categories that the students should learn in advance. It would be very important for the students to do the practical training by recognizing first the importance of the following three points:

1. gain an understanding of the children's actual condition and strengthen coordination with the “Yogo” Teacher and other school staffs
2. understand the policy favored by practical training school and the “Yogo” Teacher
3. do practical training with awareness as educator

key words : the absence of a Yogo Teacher, practical Training for Yogo Teacher Students, the difficulties

I. はじめに

養護実習は、養護教諭を目指す学生が既習の理論、知識、技術を統合させながら、学校現場において実践能力を養うための教育活動であり、講義、演習と並ぶ授業の一形態として教育課程に位置づけられている。養護実習生は、自己の実践を分析し、自らの資質・特性や今後の課題を明らかにすることで望ましい養護教諭像を描くとともに、現場に密着した養護学の研究を展望することを目標として実習に臨んでいる。

K 大学養護教諭特別別科の養護実習の手引き¹⁾によると、養護実習は、学校教育現場の全体の状況を認識し、発育発達過程にある子どもを理解すると共に、養護教諭の役割について理解を深め、実際に即して保健上の問題に関し適切な判断・処置・指導する能力を養

い、教育者として必要な資質の向上を図ることを目的としている。

養護実習においては現場の養護教諭が主な指導者になっているが、現在、ほとんどの学校で養護教諭は一人配置であるため、修学旅行や職員会議などでやむを得ず保健室を不在にする場合がある。実際、そのような場面において多くの養護実習生が一人であるいは他の教職員の協力を得ながら子どもに対応していた。しかし、その中で十分な処置や対応ができず困ったことを経験し、自らの力量不足を痛感した者も多数いたと考えられる。

養護教諭不在時に関する先行研究では、養護教諭や教諭を対象とした応急処置の内容に限られたものは見られたが^{2),3)}、養護実習生が経験した困難点に着眼した研究はほとんどない。

そこで、本研究では、養護実習生が養護教諭不在時

* 熊本大学養護教諭特別別科
** 国立病院機構肥前精神医療センター
*** 熊本信愛女学院
**** 大分三愛メディカルセンター

***** 医療法人芳和会菊陽病院
***** 福岡市立若久特別支援学校
***** 鹿児島県医療生活協同組合鹿児島生協病院

にどのようなことで困ったのか、またそのことを通して事前にどのようなことをしておけばよかったのかを半構成的面接法で調査し、検討する。さらに、それらを通して、養護実習生がより良い学びを得るためにはどのような点に着目して実習に取り組めばよいかを考察する。

II. 対象および方法

1. 調査対象

調査対象は、2006年度K大学養護教諭特別別科に在籍する計41名のうち、養護学校実習生2名と本研究班6名を除く計33名とした。

2. 調査期間

調査期間は、2006年12月5日～12月15日である。

3. 調査方法・内容

調査対象である33名に、第一段階の調査として、記名式質問紙調査により、①実習中、養護教諭が不在になったことの有無②その際の困難点の有無を調査した。①、②の質問において、両方有する対象者20名(対象者番号No.1～No.20)に、第二段階として半構成的面接法を行い、①養護教諭不在の理由②養護教諭不在時に養護実習生が経験した困ったこと③困ったことに関して事前にしておけばよかったことなどを調査した(図1)。

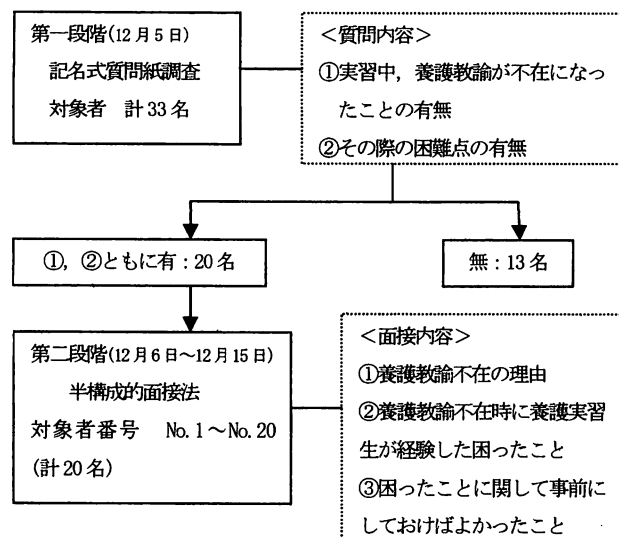


図1 調査方法・内容

4. 分析方法

対象者の了解を得て、面接内容をテープに録音し、その内容をすべて逐語録にした。その逐語録から対象者の発言のみを抽出し、養護教諭不在時に養護実習生が経験した困ったことと困ったことに関して事前にし

ておけばよかったことをKJ法によってカテゴリー化し、それぞれに名前をつけた。カテゴリー化されたもののうち、さらにカテゴリー同士で分類できる場合は、それらをまとめて大カテゴリーとした。

5. 倫理的配慮

倫理的配慮では、面接を行う前に対象者に対して、研究目的やプライバシーを侵害しないことを約束するという内容の書面とさらに口頭で説明した。また、面接時の録音の許可を得られた対象者に対しては、録音テープについても責任をもって処分することを約束し、同意書に署名してもらった。面接や分析を行う際にもプライバシーに配慮するため個室を用意し、そこで作業を行った。

III. 結果

1. 対象者について

面接対象者は、2006年9月25日～10月20日までの4週間、小学校で養護実習した者13名、中学校で養護実習した者7名の計20名である(表1)。それぞれの対象者に、No.1～No.20の対象者番号をつけた。

事例数は、最少1、最大3であり、養護教諭不在の理由は、修学旅行、研修、職員室や事務室での諸用、出勤前など様々であった。なお、No.15については、面接調査を行った結果、困ったことの内容が一般化できないものであったため今回は対象外とした。

表1 面積調査の対象者の実習校種と養護教諭が不在だった理由

対象者番号	校種	事例数	養護教諭が不在だった理由
No.1	中学校	1	職員室
No.2	小学校	3	事務室、職員室
No.3	中学校	2	職員室
No.4	小学校	2	修学旅行
No.5	中学校	3	研修、ちょっと密を外していた
No.6	小学校	2	修学旅行、トイレ掃除の見回り
No.7	小学校	2	修学旅行
No.8	中学校	1	出勤前、職員室、教育キャンプ
No.9	小学校	2	研修または会議
No.10	小学校	1	庭の場所(別の部屋)で仕事をしていた、校内巡回
No.11	小学校	2	職員室、ある子どもへの対応でちょっと保健室を離れていた
No.12	小学校	2	研修、違う学校に行っていた
No.13	小学校	2	職員室、ちょっと密を外していた
No.14	小学校	2	修学旅行
No.15(対象外)	小学校	0	出勤前
No.16	中学校	1	職員会議、先生たちとの話し合い
No.17	中学校	1	校内にはいるが保健室外にいたことが多かった
No.18	中学校	2	帰宅、職員室
No.19	小学校	2	修学旅行
No.20	小学校	2	外出、修学旅行

2. 分析対象事例

養護教諭不在時に養護実習生が経験した困ったことは合計54個であった(表2)。このうち困ったことの数が多いのは5個であり、1個の事例の中で複数の困ったことを経験した者もいた。

3. カテゴリー化について

養護教諭不在時に養護実習生が経験した困ったことに、それぞれラベルをつけ、カテゴリー化を行った。

表2 困ったことの数の集計

対象者番号	困ったことの数			合計
	事例1	事例2	事例3	
No. 1	2	-	-	2
No. 2	1	1	1	3
No. 3	2	1	-	3
No. 4	4	1	-	5
No. 5	1	1	1	3
No. 6	1	2	-	3
No. 7	4	1	-	5
No. 8	1	-	-	1
No. 9	3	1	-	4
No. 10	1	-	-	1
No. 11	1	1	-	2
No. 12	3	1	-	4
No. 13	1	2	-	3
No. 14	1	1	-	2
No. 15(対象外)	-	-	-	0
No. 16	1	-	-	1
No. 17	3	-	-	3
No. 18	2	1	-	3
No. 19	1	1	-	2
No. 20	3	1	-	4
				54

その結果、養護教諭不在時に養護実習生が経験した困ったことは、「傷病の処置方法」「衛生物品・薬品の場所及び選択」「汚物の処理方法」「保健室での休養及び教室復帰に関する判断」「傷病の程度に関する判断」「学生としての限度」「生徒指導」「連絡」「説明」「物品の場所」「書類・記録」「生活指導に関する規定」「保健室の利用に関する規定」という13個の「小カテゴリー」に分けられた。さらにこれらは、『救急処置』『状態の見極め』『学生という立場』『連携』『物品・書類』『学校の仕組み』という6個の『大カテゴリー』に分類された(表3)。

困ったことに関して事前にしておけばよかったことについても同様に、それぞれラベルをつけ、カテゴリー化を行った(表4)。なお、カテゴリー化は、表3の<事前にしておけばよかったこと>の逐語録及びラベルをもとに行った。ただし、<*情報なし><なし><特になし><特に考えていない><わからない>という回答については、対象から外した。その結果、「場所に関する情報」「子どもに関する情報」「養護教諭との情報交換」「他職員との情報交換」「救急処置に関する質問」「保健室の利用に関する質問」「意欲的な学習」「心構え」「教育者としての自覚」という9個の「小カテゴリー」に分けられた。さらにこれらは、『情報の把握』『養護教諭への質問』『自己意識の向上』という3個の『大カテゴリー』に分類された。

なお、同じ対象者において困ったことが2個以上ある場合には、(No.-①)(No.-②)のように表記した。

4. 困ったことの内訳と事前にしておけばよかったことの内訳

養護教諭不在時に養護実習生が経験した困ったことの大カテゴリーの内訳は、『救急処置』15個、『状態の見極め』10個、『学生という立場』9個、『連携』9個、『物品・書類』7個、『学校の仕組み』4個だった(図

2)。

事前にしておけばよかったことの大カテゴリーの内訳は、『情報の把握』15個、『養護教諭への質問』8個、『自己意識の向上』7個だった(図3)。

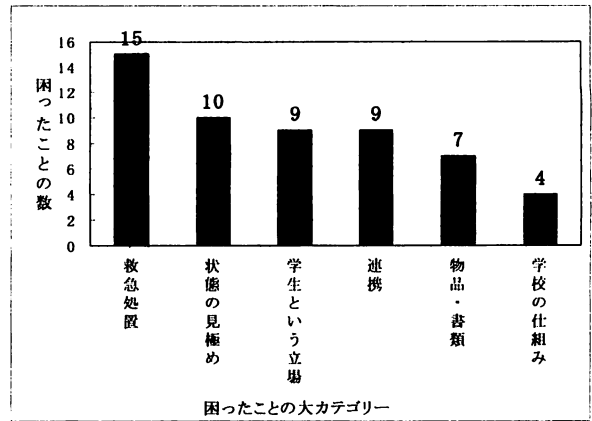


図2 困ったことの内訳

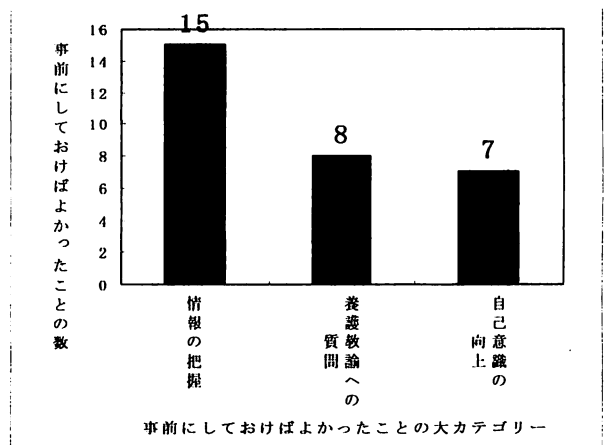


図3 事前にしておけばよかったことの内訳

5. 養護教諭不在時に養護実習生が経験した困ったこと及び事前にしておけばよかったこと

1) 救急処置

(1) 傷病の処置方法

傷病の処置方法についての困ったことは8個挙がった。具体的には、擦り傷の処置方法で困った[ラベル:擦り傷の処置](No.2-①)、打撲の処置において、打っただけで出血も何もなかったので何をしたらよいかわからなかった[ラベル:打撲の処置](No.4-①)、歯を鉄棒で打ち、口腔内を切り出血した怪我の処置で困った[ラベル:口腔内の怪我の処置](No.9-①)、重傷の処置方法がわからなかった[ラベル:重傷の処置](No.11-①)、原因がわからない水ぶくれの処置方法がわからなかった[ラベル:水ぶくれの処置](No.12-①)、目の上を軽く切って出血した怪我への処置をどのようにしたらよいのかで困った[ラベ

表3 困ったことのカテゴリー化及び〈事前にしておけばよかったこと〉のラベルとそれらの根拠となった発言

困ったことのカテゴリー	困ったこと	具体的困ったこと 及び 〈事前にしておけばよかったこと〉	根拠となった発言を逐語録より抜粋	〈事前にしておけばよかったこと〉のラベル
救急処置	傷病の処置方法	擦り傷の処置	擦り傷、その傷の位置がまぶたにかかりそうな感じのことで、これはカットバンなのかガーゼなのか、 そういう細かいところで、〈*〉 (No.2-①)	
		打撲の処置	打っただけで出血も何もなくて、「打った。」って言って保健室にやって来て、何をしたらいいかわからなかった。 〈大きな怪我の時の対応の仕方も聞いておけばよかった。〉 (No.4-①)	怪我の対応に 関する質問
	口腔内の怪我の処置	鉄棒で口腔付近を打ち出血した怪我の処置に、不安になったし困った。 〈もっと勉強しとけばよかったなあ。色んな処置方法を。〉 (No.9-①)	処置方法の 自己学習	
		重傷の処置	ひどい怪我の時にどうケアをすればいいかわからなかった。〈*〉 (No.11-①)	処置方法の 自己学習
	水ぶくれの処置	水ぶくれの処置で、何が原因かも分からないから、本当にどうしたらいいかわからなかった。 〈よく子どもが怪我するような、擦り傷、切り傷をはじめとした処置方法を頭にいれておくことが一番重要だった。〉 (No.12-①)	処置方法の 自己学習	
		目の上の怪我の処置	目の上の軽い怪我の処置をどのようにしたらいいか困った。 〈目の上かだったらどうしようかという不安は、確認がとれていけばよかったのかな。〉 (No.19-①)	目の上の怪我 に関する質問
	衛生物品・薬品の 場所及び選択	添え木の固定	添え木代わりのダンボールを固定するのに包帯を、どうやって巻くんだっけ? と思って、すごいバクった。 〈確認とか、手技的な面でもしっかりと確認してればよかったなあ。〉 (No.20-①)	外科的手技の 自己学習
		ガーゼの保管場所 物品の場所	一応ガーゼの補充はここからみたいなのを聞いてたけど、探してもなくて困った。〈*〉 (No.2-②)	物品の場所の把握
	汚物の処理方法	嘔吐物・排泄物の処理	嘔吐物、排泄物の取り扱いに関してどうしたらいいか、〈*〉 (No.11-②)	嘔吐物の処理方法 についての質問
		嘔吐物の処理	嘔吐した場合の対応を、「あーどうしよう。」っていう風に困った。 〈吐物の処理はどういう風な対応をするべきかを、きちんと先に確認しておけばよかったなあ。〉 (No.19-②)	
添え木・包帯の場所		まだ実習2日目保健室のこと全然把握してない状態で、添え木も包帯もどこにあるかわからなかった。 〈最初の日に物品の確認とかをしとけばよかった。〉 (No.20-②)	物品の場所の把握	
薬品・消毒液の選択 保冷剤の選択		薬品や消毒液が何種類もあって、どれをここでは使っているかわからなかった。〈*〉 (No.7-①)	危機感を持った 打ち合わせ	
状態の 見極め	保健室での休養 及び教室復帰 に関する判断	保健室に連れて行くかの判断	掃除の時間中に、朝吐いたと訴える子が保健室に来たが、色々話したいことがあるのになって思ったけど、 見た感じが元気だし、このまま一緒にすぐに保健室に行くのはどうだろうと困った。 〈それはいいです。〉 (No.2-③)	
		保健室で休養させるかの判断	ベントに寝かせていいのか、寝かせたら駄目なのか、椅子に座らせておくべきなのかわからなかった。 〈先生のそういうへの対応とかもよく見て、観察して、それを自分が使えるようにやるべきだった。〉 (No.7-②)	自身が対応すること を想定した観察
	教室復帰させるかの判断	〈教室に帰したいけど、本当にここで帰していいかの判断。 人ひとりの子どもを把握しておけばよかった。〉 (No.4-②)	個人の背景の把握	
	教室復帰させるかの判断	来室した生徒をベントで休ませるか、教室復帰させるかの判断。 〈生徒の家庭の状況とか、養護教諭の先生が把握している情報っていうのを、確認しておけばよかった。〉 (No.5-①)	家庭状況の把握	
	傷病の程度に 関する判断	捻挫か骨折かの判断	捻挫なのか骨折なのかについて困った。 〈足の骨折のほうまでは調べてなくて、勉強不足を感じた。もっと深くまで先生に色々聞いてたほうがよかった。〉 (No.7-③)	足の骨折について の質問
		見た目でわからない怪我 の判断	打撲部位の骨に異常があったけど、そういう見た目じゃわからない部分の判断に困った。 〈校内の様子(遊具の種類や事故の発生状況)をきちんと把握しておくことが大切になって思った。〉 (No.13-①)	校内の様子の把握
	胸の苦し み	痛みの部位の変化	怪我した(痛みの)部分がかわることで、その判断でも困った。〈*〉 (No.20-③)	
		胸の苦しみの見極め	胸の苦しさがどういう状況かわからなかったから困った。 〈もしそういうことになったらどう対応したらいいですか? 〉とか、「お家に連絡がすぐとれるのか? 〉とか確認して おくべきだった。 (No.13-②)	対応の手順に関する質問
	医療機関受診の判断	子どもへの対応の 優先順位	病院に連れていくとか、判断で困った。〈*〉 (No.4-③)	
		子どもへの対応の 優先順位	(生徒が)怪我の手当てでべーっと来た時があって、どういう順番で手当てしていくのかで困った。〈*〉 (No.5-②)	

*は情報なし ※同じ対象者において困ったことが2個以上ある場合には、(No. -①)(No. -②)のように表記する。

困ったことのカテゴリー	困ったこと	具体的困ったこと 及び 〈事前にしておけばよかったこと〉	根拠となった発言を逐語録より抜粋	〈事前にしておけばよかったこと〉のラベル
学生という立場	学生としての 態度	自分の処置に対する適否	(打撲と判断した子に)本当に氷だけ敷いて帰していいのかわ保健の先生にも診てもらいたかった。〈*〉 (No.13-③)	
		処置への介入	応急処置の際に、どの程度自分が介入してよいのかについてのも最初は何もなかった。 〈表習生は緊急時にはまずこれをしてくださいみたいなものをもっとちゃんと聞いておけばよかった。〉 (No.18-②)	緊急時の対応に 関する質問
	生徒指導	子どもへの指示	実習生だし、先生がいらないとちゃんとした指示が出せないから、どうしたらいいかわらなくて困った。〈*〉 (No.12-②)	個別の指導に 関する情報交換
		子どもへの言動に対する判断	生徒の言ったことが本音がかわらなくて困った。 〈個別の指導法があるならそれを把握しておかなくていいかな。先に共通理解を図っておけばよかった。〉 (No.18-③)	
	連絡	保護者からの質問	保護者に学校職員と思われて「これはどうですか? 〉と聞かれてもわからないから困った。 〈保護者から何を聞かれるかも分からないから、何を聞いてあげようかわからない。〉 (No.9-②)	
		薬品棚の鍵の管理	私が勝手に薬品棚の鍵を開けていいのかわ、〈*〉 (No.3-①)	
	説明	適切な指導	「うるさくするから出て行きなさい。」って言ったんだけど、なかなか開かなくて困った。 〈友達感覚になった部分があったが、けじめをつけて関わった方がよかった。言う時は言うておけばよかった。〉 (No.5-③)	けじめをつけた関わり
		適切な指導	とめどな生徒が保健室に入ってきて、ベッドで遊ぼうとしたらして騒ぎ出したから、大変で困った。 〈もっと厳しく言うてもよかったのかな。〉 (No.8)	けじめをつけた関わり
	連携	子どもとの信頼関係	信頼関係ができてなかったから、どこまで怒っていいのかわからないのかわからなくて困った。〈*〉 (No.1-①)	
		養護教諭との連絡	養護教諭を呼びに行くべきだったが、生徒同士のトラブルが起こる可能性が高く、自分は断を外せなかった。〈*〉 (No.1-②)	子どもとの コミュニケーション
養護教諭との情報交換		児童保健委員会時に先生(養護教諭)がずっとなくて、普段どう聞かされているかわからず、どうしていいかわからなかった。 〈子どもたちに話を聞いたりして、どういことをやっているか聞いておくことも必要だったのかなあ。〉 (No.12-③)		
養護教諭の居場所の確認		先生(養護教諭)がどこにいるのかわかれない時に(居場所がわからず)困った。 〈事前にはなかったです。〉 (No.17-①)		
物品・書類	担任との連絡	子どもが保健室で休んでいたが、下校時になっても担任の先生が来ず、学生だから保護者に連絡もできず困った。 〈前の休み時間と担任の先生と確認したからよかった。〉 (No.6-①)	担任への確認	
	保健室主事との連絡	あらかじめ連絡を指示されていた保健室主事は授業中で、職員室にもだれもいなかった。 〈保健室主事の先生ともっと連絡をとれるようになっておけばよかった。〉 (No.7-④)	保健室主事との 密な連絡	
物品・書類	他職員との連絡	担任の先生とかにも連絡をとっていいのかわからなかった。 〈ちゃんと先生たちと話ができたらよかった。〉 (No.9-③)	先生たちとの コミュニケーション	
	保護者への説明	子どもの状態を保護者にどう説明していいのかわからなかった。〈*〉 (No.4-④)		
物品・書類	保護者への説明	処置などについて保護者にどう説明していいのかわからなかった。〈*〉 (No.9-④)		
	担任への説明	学生としては気にかかる症状だったが、担任の先生はもう気にしなくていいから、と云うので、どうしようもない。 そこですごい困った。〈*〉 (No.12-④)		
物品・書類	物品の場所	石鹸用のネットの保管場所 (石鹸用の)ネットを子どもが取りに来たので、場所がわからなかった。 〈確認不足だったかな。〉 (No.6-②)	物品の場所の把握	
	消毒綿の保管場所	消毒綿とかが無くなった時にどこから取ればいいのか困りました。 〈情報収集不足だと感じました。〉 (No.7-⑥)	物品の場所の把握	
	石鹸・トイレットペーパーの 保管場所	替えの石鹸・トイレットペーパーの場所を知らなかった。 〈特別考えてないですね。〉 (No.17-②)		
	体操服の場所	(体操服の置いてある)場所がわからなかった。 〈諸物品を全部把握しといたらよかった。〉 (No.3-②)	物品の場所の把握	
書類・記録	日本スポーツ振興センターの書類	日本スポーツ振興センターの紙とかをどう準備していいんだろうと思って、困りました。〈*〉 (No.4-⑤)		
	日本スポーツ振興センターの書類	教頭先生に「書類どこにあるの? 〉って聞かれて、全くわからなくて困りました。 〈もっと場所とかを確認しておけばよかった。〉 (No.14-②)	書類の場所の把握	
生活指導に 関する規定	メモのし忘れ	(対応した子どもの名前を)メモしておくのを忘れた。 〈メモ用紙を自分で用意しておく必要があった。〉 (No.20-④)	メモ用紙の用意	
	体操服の貸し出し制度	体操服の貸し出し制度が本当にどうなのかわからない、勝手に物を貸していいのかわか。 〈諸物品を全部把握しといたらこれどうやって使うんですか? 〉くらい一言聞けたのかなあ。 (No.3-③)	物品の用途に 関する質問	
保健室の利用に 関する規定	着替えの手続き	着替えに関する手続きじゃないけど、そんなのがあつたのかわからなくて困った。〈*〉 (No.6-③)		
	保健室の利用方法	学校のシステム(保健室の利用方法)があって、その手順を踏まずに困った。 〈生徒がどうやって保健室を利用するのか把握しておけばよかった。〉 (No.16)	保健室の利用方法 についての質問	
生活指導に 関する規定	着替の手続き	着替の手続きを覚えておくべきだった。 (No.17-③)		
	着替の手続き	着替の手続きを覚えておくべきだった。 (No.17-③)		

*は情報なし ※同じ対象者において困ったことが2個以上ある場合には、(No. -①)(No. -②)のように表記する。

表4 <事前にしておけばよかったこと>のカテゴリー化とその根拠となった発言

カテゴリー		ラベル	<事前にしておけばよかったこと>の根拠となった発言を逐語録より抜粋	
大	小			
情報の把握	場所に関する情報	物品の場所の把握	<諸物品を全部把握したらよかった。> (No.3-②)	
		物品の場所の把握	<確認不足だったかな。> (No.6-②)	
		物品の場所の把握	<情報収集不足だと感じました。> (No.7-⑤)	
		物品の場所の把握	<見とけばよかった。> (No.10)	
		物品の場所の把握	<最初の日に物品の確認とかをしとくべきだった。> (No.20-②)	
	子どもに関する情報	書類の場所の把握	<もつと場所とかを確認しておけばよかった。> (No.14-②)	
		個人の背景の把握	<一人ひとりの子どもを把握しておけばよかった。> (No.4-②)	
		家庭状況の把握	<生徒の家庭の状況とか、養護教諭の先生が把握している情報っていうのを、確認しておけばよかった。> (No.5-①)	
	養護教諭との情報交換	子どもとのコミュニケーション	<子どもたちに話を聞いて、どういうことをやっているかを聞いておくことも必要だったかな。> (No.12-③)	
		校内の様子の把握	<校内の様子(遊具の種類や事故の発生状況)をきちんと把握しておくことが大切になって思った。> (No.13-①)	
	他職員との情報交換	個別の指針に関する情報交換	<個別の指針法があるならそれを把握しておかなければならないし、先に共通理解を図っておくべきだった。> (No.18-③)	
		メモ用紙の用意	<メモ用紙を自分で用意しておく必要があった。> (No.20-④)	
担任への確認		<前の休み時間とかに担任の先生と確認したりしておけばよかった。> (No.6-①)		
養護教諭への質問	救急処置に関する質問	保健主事との密な連絡	<保健主事の先生ともっと連絡を密に取るようにしておけばよかった。> (No.7-④)	
		先生たちとのコミュニケーション	<ちゃんと先生たちと話ができたらよかった。> (No.9-③)	
		怪我の対応に関する質問	<大きな怪我の時の対応の仕方聞いておけばよかった。> (No.4-①)	
		足の骨折についての質問	<足の骨折のほうまでは調べてなくて、勉強不足を感じた。もつと深くまで先生に色々聞いてたほうがよかった。> (No.7-③)	
	保健室の利用に関する質問	対応の手順に関する質問	<「もしそういうことになったらどう対応したいですか?」とか、「お家に連絡がすぐとれるのか?」とか確認しておくべきだった。> (No.13-②)	
		緊急時の対応に関する質問	<実習生は緊急時にはまずこれをしてくださいみたいなのをもつとちゃんと聞いておけばよかった。> (No.18-②)	
		目の上の怪我に関する質問	<目の上とかだったらどうふうにするか、確認がとれていればよかったかな。> (No.19-①)	
		嘔吐物の処理方法に関する質問	<吐物の処理はどういう風な対応をするべきかを、きちんと先に確認しておけばよかったな。> (No.19-②)	
	意欲的な学習	物品の用途に関する質問	<体服の貸出制度について知っておくため、諸物品を全部把握したら「これどうやって使うんですか?」くらい一言聞いたかな。> (No.3-③)	
		保健室の利用方法に関する質問	<生徒がどうやって保健室を利用するのか把握しておけばよかった。> (No.16)	
	自己意識の向上	意欲的な学習	処置方法の自己学習	<もつと勉強しとけばよかったな。色んな処置方法を。> (No.9-①)
			処置方法の自己学習	<よく子どもが怪我するような、擦り傷、切り傷をはじめとした処置方法を頭に入れておくことが一番重要だった。> (No.12-①)
外科的手技の自己学習			<確認とか、手技的な面でもしっかり確認してればよかったな。> (No.20-①)	
心構え		自身が対応することを想定した観察	<先生のそういうふうへの対応がもつと見て、観察して、それを自分が使えるようにやるべきだった。> (No.7-②)	
		危機感を持った打ち合わせ	<場所の確認は一通りしたからよかったけど、もうちょっと危機感を持って打ち合わせをしとくべきだった。> (No.18-①)	
教育者としての自覚		けじめをつけた関わり	<友達感覚になつた部分があったが、けじめをつけて関わった方がよかった。言う時は言うておけばよかった。> (No.5-③)	
	けじめをつけた関わり	<もつと厳しく言つてもよかったかな。> (No.8)		

※同じ対象者において困ったことが2個以上ある場合には、(No. -①)(No. -②)のように表記する。

ル：目の上の怪我の処置] (No.19-①)、添え木の代わりにダンボールを用いて固定する際に包帯の巻き方がわからず困惑した [ラベル：添え木の固定] (No.20-①)、嘔気を訴える子どもへの対応に関して、どうしたらよいのかわからなかった [ラベル：嘔気を訴える子どもへのケア] (No.14-①) という内容が挙げられた。これらは全て、「傷病の処置方法」の小カテゴリーに分けられ、さらに『救急処置』の大カテゴリーに分類された。

これらに関して、事前にしておけばよかったことについては、大きな怪我の時の対応の仕方を聞いておけばよかった [ラベル：怪我の対応に関する質問] (No.4-①)、色んな処置方法を勉強しておけばよかった [ラベル：処置方法の自己学習] (No.9-①)、擦り傷や切り傷など子どもがよくする怪我への処置方法を復習して事前に頭に入れておくことが重要だった [ラベル：処置方法の自己学習] (No.12-①)、目の上の怪我だったらどのように処置すればよいかを確認しておけばよかった [ラベル：目の上の怪我に関する質問] (No.19-①)、手技的な面(技術)を実習前にしっかり確認(復習)しておけばよかった [ラベル：外科的手技の自己学習] (No.20-①) という内容が挙げられた。中には特にはない (No.14-①) という意見もあった。

これらを分類すると、(No.4-①)(No.19-①)は「救急処置に関する質問」の小カテゴリー、さらに『養護教諭への質問』の大カテゴリーに分けられ、(No.9-①)(No.12-①)(No.20-①)は「意欲的な学習」の小カテゴリー、さらに『自己意識の向上』の大カテゴリーに分けられた。

(2) 衛生物品・薬品の場所及び選択

衛生物品・薬品の場所及び選択についての困ったことは5個挙げられた。具体的には、ガーゼが無くなり補充しようとした時に、事前に聞いていた保管場所を探してもなくて困った [ラベル：ガーゼの保管場所] (No.2-②)、物品の場所がわからなかった [ラベル：物品の場所] (No.10)、添え木や包帯がどこにあるのかわからなかった [ラベル：添え木・包帯の場所] (No.20-②)、薬品や消毒液が何種類もあったので、どれを使用すればよいのかわからなかった [ラベル：薬品・消毒液の選択] (No.7-①)、保冷剤や氷が用途別にどのように使い分けられているのかわからず、それらをどこから取っていいのかわからなかった [ラベル：保冷剤の選択] (No.18-①) という内容が挙げられた。これらは全て、「衛生物品・薬品の場所及び選択」の小カテゴリーに分けられ、さらに『救急処置』の大カテゴリーに分類された。

これらに関して、事前にしておけばよかったことについては、諸物品の置いてある場所を見ておけばよかった〔ラベル：物品の場所の把握〕(No.10)、最初の日に物品の確認をしておくべきだった〔ラベル：物品の場所の把握〕(No.20-②)、もうちょっと危機感を持って打ち合わせをしておくべきだった〔ラベル：危機感を持った打ち合わせ〕(No.18-①)という内容が挙げられた。これらを分類すると、(No.10)(No.20-②)は「場所に関する情報」の小カテゴリー、さらに『情報の把握』の大カテゴリーに分けられ、(No.18-①)は「心構え」の小カテゴリー、さらに『自己意識の向上』の大カテゴリーに分けられた。

(3) 汚物の処理方法

汚物の処理方法についての困ったことは2個挙げられた。具体的には、嘔吐物・排泄物の取り扱いに関して、どうしたらよいのかわからなかった〔ラベル：嘔吐物・排泄物の処理〕(No.11-②)、嘔吐した場合の対応に困った〔ラベル：嘔吐物の処理〕(No.19-②)という内容が挙げられた。これらは、「汚物の処理方法」の小カテゴリーに分けられ、さらに『救急処置』の大カテゴリーに分類された。

これらに関して、事前にしておけばよかったことについては、嘔吐物の処理はどのように対応すべきかを、事前に確認しておけばよかった〔ラベル：嘔吐物の処理方法についての質問〕(No.19-②)という内容が挙げられた。これを分類すると「救急処置に関する質問」の小カテゴリー、さらに『養護教諭への質問』の大カテゴリーに分けられた。

2) 状態の見極め

(1) 保健室での休養及び教室復帰に関する判断

保健室での休養及び教室復帰に関する判断についての困ったことは4個挙げられた。具体的には、掃除の見回り中に、朝吐いたと訴える子どもが保健室に来たがり、色々話したいことがあるのかと思ったが、見た目は元気だったので、すぐに保健室に連れて行くべきかどうかで困った〔ラベル：保健室に連れて行くかの判断〕(No.2-③)、保健室で休養をさせる場合、ベッドに寝かせるべきか、椅子に座らせるべきかなのかわからなかった〔ラベル：保健室で休養させるかの判断〕(No.7-②)、教室復帰させたいが、本当にここで帰していいかどうかの判断で困った〔ラベル：教室復帰させるかの判断〕(No.4-②)、来室した子どもをベッドに休ませるか、教室復帰させるかの判断で困った〔ラベル：教室復帰させるかの判断〕(No.5-①)という内容が挙げられた。これらは全て、「保健室での休養及び教室復帰に関する判断」の小カテゴリーに分けられ、さらに『状態の見極め』の大カテゴリーに分

類された。

これらに関して、事前にしておけばよかったことについては、先生の子どもへの対応をじっくり観察して、それを自分も使えるようにするべきだった〔ラベル：自分に対応することを想定した観察〕(No.7-②)、一人ひとりの子どもを把握しておけばよかった〔ラベル：個人の背景の把握〕(No.4-②)、子どもの家庭の状況や養護教諭が把握している情報を、確認しておけばよかった〔ラベル：家庭状況の把握〕(No.5-①)という内容が挙げられた。中には、それはないです(No.2-③)という意見もあった。これらを分類すると、(No.7-②)は「心構え」の小カテゴリー、さらに『自己意識の向上』の大カテゴリーに分けられ、(No.4-②)(No.5-①)は「子どもに関する情報」の小カテゴリー、さらに『情報の把握』の大カテゴリーに分けられた。

(2) 傷病の程度に関する判断

傷病の程度に関する判断についての困ったことは6個挙げられた。具体的には、捻挫なのか骨折なのかの判断で困った〔ラベル：捻挫か骨折かの判断〕(No.7-③)、打撲部位の骨など見た目ではわからない部分の判断で困った〔ラベル：見た目ではわからない怪我の判断〕(No.13-①)、怪我した痛みの部分が変わるので困った〔ラベル：痛みの部位の変化〕(No.20-③)、胸の苦しさがどういう状況かわからず困った〔ラベル：胸の苦しみの見極め〕(No.13-②)、医療機関を受診させるべきかどうかの判断で困った〔ラベル：医療機関受診の判断〕(No.4-③)、たくさんの子どもが怪我的手当てで同時に来た時、どういう順番で手当てすればよいのかで困った〔ラベル：子どもへの対応の優先順位〕(No.5-②)という内容が挙げられた。これらは全て、「傷病の程度に関する判断」の小カテゴリーに分けられ、さらに『状態の見極め』の大カテゴリーに分類された。

これらに関して、事前にしておけばよかったことについては、足の骨折については調べておらず、勉強不足を感じ、もっと深くまで先生に色々聞いておいた方がよかった〔ラベル：足の骨折についての質問〕(No.7-③)、校内の様子(遊具の種類や事故の発生状況)をきちんと把握しておくことが大切だと思った〔ラベル：校内の様子把握〕(No.13-①)、「もしそういうことになったらどう対応したらいいですか?」や「お家に連絡がすぐとれるか?」ということを確認しておくべきだった〔ラベル：対応の手順に関する質問〕(No.13-②)という内容が挙げられた。これらを分類すると、(No.7-③)(No.13-②)は「救急処置に関する質問」の小カテゴリー、さらに『養護教諭への質問』の大カテゴリーに分けられ、(No.13-①)は「子

どもに関する情報」の小カテゴリー、さらに『情報の把握』の大カテゴリーに分けられた。

3) 学生という立場

(1) 学生としての限度

学生としての限度についての困ったことは6個挙げられた。具体的には、打撲と判断した子どもに氷だけ渡して帰していいのかわからなかったので、養護教諭にも診てもらいたかった[ラベル：自分の処置に対する適否](No.13-③)、応急処置の際に学生としてどの程度介入してよいかかわからず困った[ラベル：処置への介入](No.18-②)、実習生であるため養護教諭がいないと子どもにちゃんとした指示が出せないことで困った[ラベル：子どもへの指示](No.12-②)、子どもの言ったことが本当か嘘かわからなくて困った[ラベル：子どもの言動に対する判断](No.18-③)、保護者に学校職員と思われて学校のことについて質問されたが答えられず困った[ラベル：保護者からの質問](No.9-②)、自分が勝手に薬品棚の鍵を開けてよいかかわからず困った[ラベル：薬品棚の鍵の管理](No.3-①)という内容が挙げられた。これらは全て、「学生としての限度」の小カテゴリーに分けられ、さらに『学生という立場』の大カテゴリーに分類された。

これらに関して、事前にしておけばよかったことについては、実習生の応急処置への介入の程度について事前に聞いておけばよかった[ラベル：緊急時の対応についての質問](No.18-②)、個別的な指導方法があるならその方法を把握し、共通理解しておかなければならなかった[ラベル：個別的な指導に関する情報交換](No.18-③)という内容が挙げられた。中には、保護者からの質問は何を聞かれるかわからないので事前に何を聞いておけばよかったのかもわからない(No.9-②)という意見もあった。これらを分類すると、(No.18-②)は「救急処置に関する質問」の小カテゴリー、さらに『養護教諭への質問』の大カテゴリーに分けられ、(No.18-③)は「養護教諭との情報交換」の小カテゴリー、さらに『情報の把握』の大カテゴリーに分けられた。

(2) 生徒指導

生徒指導についての困ったことは3個挙げられた。具体的には、子どもが自分の指導をなかなか聞かず困った[ラベル：適切な指導](No.5-③)、とめどなく子どもが保健室に入ってきて騒ぎ出したので困った[ラベル：適切な指導](No.8)、信頼関係ができていないためどこまで強く怒っていいのかに迷い困った[ラベル：子どもとの信頼関係](No.1-①)という内容が挙げられた。これらは全て、「生徒指導」の小カテ

グリーに分けられ、さらに『学生という立場』の大カテゴリーに分類された。

これらに関して、事前にしておけばよかったことについては、友達感覚ではなくけじめをつけて関わった方がよかった[ラベル：けじめをつけた関わり](No.5-③)、もっと厳しく言ってもよかった[ラベル：けじめをつけた関わり](No.8)という内容が挙げられた。これらを分類すると、(No.5-③)(No.8)は「教育者としての自覚」の小カテゴリー、さらに『自己意識の向上』の大カテゴリーに分けられた。

4) 連携

(1) 連絡

連絡についての困ったことは6個挙げられた。具体的には、養護教諭を呼びに行くべきだったが、子ども同士のトラブルが起こる可能性が高く、自分は席を外せなかったので困った[ラベル：養護教諭との連絡](No.1-②)、児童保健委員会時に、普段養護教諭がどのように対応しているのかわからず困った[ラベル：養護教諭との情報交換](No.12-③)、養護教諭がどこにいるのか聞かれたときに、居場所がわからず困った[養護教諭の居場所の確認](No.17-①)、子どもが保健室で休んでいたが、下校時刻になっても担任の先生が来ず、学生だから保護者に連絡もできずに困った[ラベル：担任との連絡](No.6-①)、緊急時に保健主事と連絡をとりたかったが、授業中で連絡がとれず、職員室にも誰もいなくて困った[ラベル：保健主事との連絡](No.7-④)、担任の先生などどのように連絡をとってよいかかわからなかった[ラベル：他職員との連絡](No.9-③)という内容が挙げられた。これらは全て、「連絡」の小カテゴリーに分けられ、さらに『連携』の大カテゴリーに分類された。

これらに関して、事前にしておけばよかったことについては、子どもたちと話をし、児童保健委員会では、どういう活動をしているのか聞いておくことが必要だった[ラベル：子どもとのコミュニケーション](No.12-③)、前の休み時間に担任の先生と確認しておけばよかった[ラベル：担任への確認](No.6-①)、保健主事の先生と連絡を密にとれるようにしておけばよかった[ラベル：保健主事との密な連絡](No.7-④)、ちゃんと先生たちと話ができればよかった[ラベル：先生たちとのコミュニケーション](No.9-③)という内容が挙げられた。中には、事前にはなかった(No.17-①)という意見もあった。これらを分類すると、(No.12-③)は「子どもに関する情報」、(No.6-①)(No.7-④)(No.9-③)は「他職員との情報交換」の小カテゴリー、さらにこれらは『情報の把握』の大カテゴリーに分けられた。

(2) 説明

説明についての困ったことは3個挙げた。具体的には、子どもの状態を保護者にどのように説明すればよいのかわからなかった〔ラベル：保護者への説明〕(No.4-④)、処置について保護者にどのように説明すればよいのかわからなかった〔ラベル：保護者への説明〕(No.9-④)、学生としては気にかかる症状だったが、担任の先生から「気にしなくていい。」と言われ、どうすればよいのかわからず困った〔ラベル：担任への説明〕(No.12-④)という内容が挙げた。これらは全て、「説明」の小カテゴリーに分けられ、さらに『連携』の大カテゴリーに分類された。

これらに関して、事前にしておけばよかったことについては、いずれも情報が得られていない。

5) 物品・書類

(1) 物品の場所

物品の場所についての困ったことは4個挙げた。具体的には、石鹸のネットの場所がわからなかった〔ラベル：石鹸用のネットの保管場所〕(No.6-②)、消毒綿をどこから取ればよいのかわからず困った〔ラベル：消毒綿の保管場所〕(No.7-⑤)、石鹸・トイレットペーパーの場所を知らなかった〔ラベル：石鹸・トイレットペーパーの保管場所〕(No.17-②)、体操服の置いてある場所がわからなかった〔ラベル：体操服の場所〕(No.3-②)という内容が挙げた。これらは全て、「物品の場所」の小カテゴリーに分けられ、さらに『物品・書類』の大カテゴリーに分類された。

これらに関して、事前にしておけばよかったことについては、確認不足だった〔ラベル：物品の場所の把握〕(No.6-②)、情報収集不足だと感じた〔ラベル：物品の場所の把握〕(No.7-⑤)、諸物品を全部把握しておけばよかった〔ラベル：物品の場所の把握〕(No.3-②)という内容が挙げた。中には、特別考えていなかった(No.17-②)という意見もあった。これらを分類すると、(No.6-②)(No.7-⑤)(No.3-②)は「場所に関する情報」の小カテゴリーに分けられ、さらに『情報の把握』の大カテゴリーに分けられた。

(2) 書類・記録

書類・記録についての困ったことは3個挙げた。具体的には、日本スポーツ振興センターの書類をどのように準備してよいのかわからず困った〔ラベル：日本スポーツ振興センターの書類〕(No.4-⑤)、書類の場所を聞かれたがわからず困った〔ラベル：日本スポーツ振興センターの書類〕(No.14-②)、メモ用紙を持っておらず、対応した子どもの名前をメモしておくのを忘れた〔ラベル：メモのし忘れ〕(No.20-④)

という内容が挙げた。これらは全て、「書類・記録」の小カテゴリーに分けられ、さらに『物品・書類』の大カテゴリーに分類された。

これらに関して、事前にしておけばよかったことについては、もっと場所とかを確認しておけばよかった〔ラベル：書類の場所の把握〕(No.14-②)、メモ用紙を自分で用意しておく必要があった〔ラベル：メモ用紙の用意〕(No.20-④)という内容が挙げた。これらを分類すると、(No.14-②)は「場所に関する情報」、(No.20-④)は「養護教諭との情報交換」の小カテゴリーに分けられ、さらにこれらは『情報の把握』の大カテゴリーに分けられた。

6) 学校の仕組み

(1) 生活指導に関する規定

生活指導に関する規定についての困ったことは2個挙げた。具体的には、本当に体操服の貸し出し制度があるのかわからず、また勝手に体操服を貸してよいのかどうかわからず困った〔ラベル：体操服の貸し出し制度〕(No.3-③)、着替えに関する手続きがあるのかわからず困った〔ラベル：着替えの手続き〕(No.6-③)という内容が挙げた。これらは全て、「生活指導に関する規定」の小カテゴリーに分けられ、さらに『学校の仕組み』の大カテゴリーに分類された。

これらに関して、事前にしておけばよかったことについては、諸物品を把握しておけば「これどうやって使うんですか？」と聞けたのではないか〔ラベル：物品の用途に関する質問〕(No.3-③)という内容が挙げた。これを分類すると、(No.3-③)は「保健室の利用に関する質問」の小カテゴリー、さらに『養護教諭への質問』の大カテゴリーに分けられた。

(2) 保健室の利用に関する規定

保健室の利用に関する規定についての困ったことは2個挙げた。具体的には、保健室利用における学校のシステムの手順が踏めず困った〔ラベル：保健室の利用方法〕(No.16)、落し物・忘れ物の管理を保健室でしていることを知らなかった〔ラベル：落し物等の管理〕(No.17-③)という内容が挙げた。これらは全て、「保健室の利用に関する規定」の小カテゴリーに分けられ、さらに『学校の仕組み』の大カテゴリーに分類された。

これらに関する困ったことに関して、事前にしておけばよかったことについては、子どもがどのように保健室を利用するのか把握しておけばよかった〔ラベル：保健室の利用方法についての質問〕(No.16)という内容が挙げた。一方、(No.17-③)は特別考えていないという意見だった。これを分類すると、(No.16)は「保健室の利用に関する質問」の小カテゴリー、

さらに『養護教諭への質問』の大カテゴリーに分けられた。

6. 困ったことのカテゴリーと事前にしておけばよかったことのカテゴリーとの関係性

困ったことのカテゴリーと事前にしておけばよかったことのカテゴリーとの関係性を示したものが図4である。なお、度数は事前にしておけばよかったことの数であり、線の太さは度数1から度数4の順に太く表示した。困ったことを経験したときに事前にしておけばよかったと思うことは全て、『情報の把握』『養護教諭への質問』『自己意識の向上』に集約された。中でも、最もつながりがあったのは、『連携』の「連絡」と『情報の把握』（度数：4）、次いで『救急処置』の「傷病の処置方法」と『自己意識の向上』（度数：3）、『物品・書類』の「物品の場所」と『情報の把握』（度数：3）であった。

IV. 考察

本研究から、養護実習生は、養護教諭不在時に一人で対応しなければならない状況であるがゆえに、様々な困ったことを経験し、またそれに対する事前にしておけばよかったことをそれぞれに考えていることが把握できた。図4を見ると、最もつながりがあったのは、『連携』の「連絡」と『情報の把握』、次いで『救急処置』の「傷病の処置方法」と『自己意識の向上』、『物品・書類』の「物品の場所」と『情報の把握』であった。このことから、校内で連携を図るためにはあらゆる情報の把握が大切であること、救急処置に関する困ったことを改善するためには、自己意識の向上が重要な因子となること、また物品や書類に関して困らないようにするためには情報の把握が必要であることが示唆された。

情報の把握が、『連携』の「連絡」と最も強くつながっている背景には、困ったことに直面した際に、養護実習生が持っている情報だけでなく、事前に養護教諭や他職員から情報を得て、連携を図ることで子どもへの対応が円滑に進められると考えた者が多かったのではないかと推察される。情報には、養護教諭だからこそ得られるものと、他職員だからこそ得られるものがある。そのため養護実習生はあらゆる場面を想定し、実習開始時から日常的に連携を図り、多角的な視点から子どもの情報を把握することが養護教諭不在時における援助の要となると考えられる。このように学級での様子や家庭状況など個々の子どもに関する情報を様々な側面から把握することは、健康相談活動を意識

した関わりという視点からも重要であると考えられる。また、物品等の場所の把握も子どもへの迅速な対応のためには欠かせない要素であり、あらゆる情報の把握を行うことは、養護実習生自身が養護実習を円滑に進めるために重要であることが示唆される。

次に、養護教諭への質問は、「傷病の処置方法」「傷病の程度に関する判断」に比較的つながりが強かった。この背景には第一に、救急処置や状態の見極めにおいては、学校独自あるいは養護教諭独自の方針があるため、自己の学習だけでは補えない部分があったのではないかと、第二に、養護実習生は初めての学校現場で経験が不足していることから傷病の処置の方法やその程度に関する判断など、養護実習生の力量や主観だけでは、判断できない状況があったのではないかとという二つの点が考えられた。また、学校の仕組みにおいてもその学校の独自性が強いいため、自己の情報だけでは補えないという点で第一に述べていることと同様のことが言えるのではないかと考える。

初めてその実習校に入る養護実習生にとって、学校独自の慣習や養護教諭独自の方針を初日から十分に把握して臨む事は難しい。だからこそ、わからないことは、養護教諭にひとつひとつ尋ねながら習っていくことが重要であり、これまで培ってきた自らの知識をその学校独自、養護教諭独自の方針と統合させながら、自己の力量を伸ばしていこうとする姿勢が大切であろう。また、質問については、実習当初から行っていくことが望ましい。処置の方法は学校や養護教諭によって違えども、そのひとつひとつには必ず根拠があると考えられる。従って、質問することは何よりも実践に即した知識・手技を学ぶ有効な方法ではないかと考えられる。

さらに、困ったことの小カテゴリーを見てみると、同様の困ったことを経験した場合でも、事前にしておけばよかったことが同一のカテゴリーにつながるとは限らず、2個の大カテゴリーとつながっている場合も見られた。「傷病の処置方法」「衛生物品・薬品の場所及び選択」「保健室での休養及び教室復帰に関する判断」「傷病の程度に関する判断」「学生としての限度」については、事前にしておけばよかったことの『情報の把握』『養護教諭への質問』『自己意識の向上』という大カテゴリーのうちいずれか2個とそれぞれつながっていた。このことから、同じような困ったことを経験しても、これらに対する受け止め方はひとつではなく、個人によって相違がある場合や複合的に捉える場合があることも示唆された。

では、なぜ受け止め方にそのような違いがあったのであろうか。ここでは、上記のもののうち、1個が『自己意識の向上』の大カテゴリーとつながっている

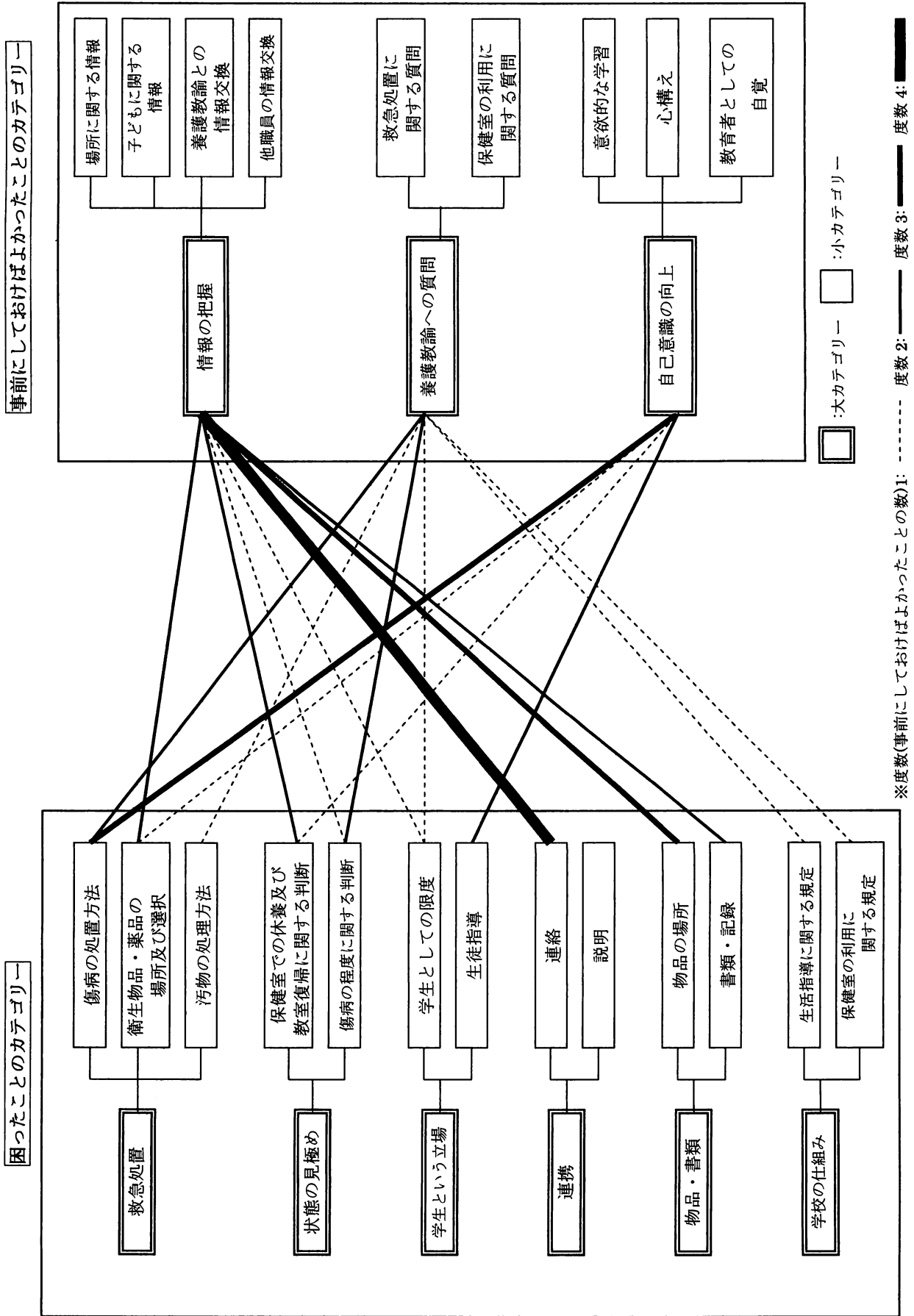


図4 困ったことのカテゴリーと事前にしておけばよかったことのカテゴリーとの関係性

ものに注目し、学生としての成長という視点から述べる。『自己意識の向上』以外のカテゴリーにあるものは、何か困ったことを経験した時、ただ、“聞いておけばよかった”“確認しておけばよかった”と思い、『自己意識の向上』のカテゴリーにあるものは、“もっと勉強しとけばよかったなあ”“先生の子どもへの対応とかもじっくり見て、観察して、それを自分が使えるようにやるべきだった”“はじめをつけて関わった方がよかった”など、実習に取り組むための心構えや教育者としての自覚が足りなかったと捉えられ、何事にも意欲的な姿勢で臨むなど自己意識を向上させていこうとしていることがわかる。このように、受け止め方は2通りに分けられることが示唆された。これらの違いは、自らが何事にも意欲的に励み、自己の力量を高めようという意識の違いであると考えられる。困ったことが起きた時に、自己の養護教諭としてのイメージが出来ている者は、そのイメージがあるからこそそれに沿うように自ら学習を深めていこうとする思考に至るのではないかと予想されるが、一方で、イメージがまだ確立していない者は、それが無いことにより自分で何を学習すれば深まるのかがわからず、困ったことに対する受け止め方が幾分弱く、他者に力を借りるという思考で納まってしまうのではないかと考えられる。

塩田らは、自分が果たすべき自分なりのアイデンティティを持った養護教諭像（理想像）があったからこそ、自分の力量不足を痛感し⁴⁾、それを果たせず自分を責め、落ち込むことになると養護教諭を対象とした先行研究から推察しており、養護実習生においても同様のことが言えるのではないかと考えることができる。従って、これも併せて考えると、処置の方法、子どもへの対応に、自分が養護実習生として関わる時の理想をイメージ出来ていた者は、それとのギャップから、自分に具体的に何が足りなかったのかを感じ取り、自己の学習や心構え、教育者としての自覚の視点で、事前にしておけばよかったことを捉えたのではないかということが本研究から示唆された。

加えて、表3から困ったことのラベルの数が最も多かった『救急処置』の「傷病の処置方法」について述べる。このことから、やはり養護実習生が養護教諭不在時に困ったと感じるのは、救急処置の処置方法についてであると言える。そもそも、救急処置は従来から養護教諭の主要な職務のひとつであり、養護実習生もこれについての力量をしっかりと身につけておくことは肝要である。別科の場合、救急処置については、看護師養成機関で学んだ内容と重複している部分がある。しかし、現在の看護師養成機関では基本的な看護問題のアセスメント能力や観察能力の育成に重点をおいて

いる⁵⁾ため、必ずしも技術重視ではないことを考えると再確認の意味でも別科では、学校現場に即した救急処置の講義をさらに充実させることが必要であると考える。

ものごとに出会ったときに自分の内に引き起こされる独自の体験や感覚を出発点にして、ものごとと付きあいつつ、ものごとへの探求を深めていく⁶⁾ことが、重要である。人生で一度切りの、且つ学校現場での経験が皆無の状態で臨む別科生にとっての養護実習は、とても貴重な経験である。初めての学校現場であるため、経験によって作られる既存の固定観念が構築されていないからこそ、感じとれることも多い。ゆえに、その感性を大切にし、その中で出会う出来事（困ったこと）を十分に受け止め、正面から向き合い、さらに養護実習生としての自己の在り方を見つめながら学校現場に臨むことが、学生としての成長、つまり力量の向上により良くつながっていくと考えられる。また、このような姿勢で取り組むことは、実習後の学びや研究のさらなる充実につながっていくと考える。

今回の面接調査では、養護実習生が養護教諭不在時に経験した困ったこととそれに対する事前にしておけばよかったことの調査を行い、上記のような結果を得た。しかし、本研究は対象者の人数が少なく、またK大学の養護教諭特別別科生のみを対象としたため、地域性やK大学のカリキュラムによる影響などによって、偏りのある結果であった可能性も否定できない。さらに、本研究は4年制大学の養護教諭養成課程の養護実習生を対象としていないため、全ての養護実習生のものとして一般化されるものではないと考えられる。したがって、全国6大学全ての別科生を対象とし、さらに4年制大学の養護教諭養成課程の養護実習生も対象とした調査を行うことにより、養護実習生が学生として成長できるための要素を探索していけるようにすることが今後の課題である。

V. まとめ

本研究は、養護実習生が養護教諭不在時にどのようなことで困ったのか、またそのことを通して事前になんのようなことをしておけばよかったのかを調査、検討し、それを通して、養護実習生がより良い学びを得るためにはどのような点に着目して実習に取り組めばよいかを明らかにすることを目的として、K大学養護教諭特別別科の学生を対象に半構成的面接調査を実施した。そして、養護教諭不在時に困ったことと事前にしておけばよかったことの関係性から、以下の結果が得られた。

1. 別科生が養護教諭不在時に経験した困ったこととそれに対する事前におけばよかったことを分析した結果から、前者は54個のラベルが抽出され、さらに13個の小カテゴリーと6個の大カテゴリーに分類された。一方、後者は30個のラベルが抽出され、さらに9個の小カテゴリーと3個の大カテゴリーに分類された。
2. 困ったことの大カテゴリーは、『救急処置』『状態の見極め』『学生という立場』『連携』『物品・書類』『学校の仕組み』に分類された。一方で、事前におけばよかったことの大カテゴリーは、『情報の把握』『養護教諭への質問』『自己意識の向上』に分類された。
3. 同じような困ったことを経験しても、これらに対する受け止め方はひとつではなく、個人によって違う場合もあることが示唆された。
4. 「連絡」と『情報の把握』は、最もつながりが強かった。このことから、養護実習生はあらゆる場面を想定し、実習開始時から日常的に連携を図り、多角的な視点から子どもの情報を把握することが必要であると考ええる。
5. 「傷病の処置方法」「傷病の程度に関する判断」と『養護教諭への質問』は、比較的つながりが強かった。このことから、養護教諭に質問をすることで、これまで培ってきた自らの知識をその学校独自、養護教諭独自の方針と統合させながら、自己の力量を伸ばしていこうとする姿勢が大切であると考ええる。
6. 「傷病の処置方法」「生徒指導」と『自己意識の向上』は、比較的つながりが強かった。このことから、処置の方法、子どもへの対応において、養護実習生は自己の学習や心構え、教育者としての自覚を持って、実習に臨むことが重要であると考ええる。

参考文献

- 1) 熊本大学養護教諭特別科：養護実習の手引，1
- 2) 香川朋恵：養護教諭不在時における救急体制に関する研究，弘前学校保健科学，25，1-4，2006
- 3) 近藤由巳，渡邊真紀子：養護教諭不在時における保健室の在り方，愛知教育大学養護教育科卒業研究論文集，3，101-104，1997
- 4) 塩田瑠美，大谷尚子，森田光子：実践をとおして培われる養護教諭の相談活動に関する力量-力量形成のきっかけとなる「出来事」について-，日本養護教諭教育学会誌，6(1)，66，2003
- 5) 井上恵美子，小川雅代，古谷美栄子，他：養護教諭養成における別科の体制に関する検討，新潟大学養護教諭特別科修士研究論文集，15，96，1995
- 6) 近藤邦夫，岡村達也，保坂享：子どもの成長教師の成長：学校臨床の展開，東京大学出版，5，2000